

2016年度 行事報告

【総会】

日 時：2016年6月26日（日）
場 所：佐倉城址公園
参加者数：77名（大人68名、子供9名）

総会が佐倉城址公園で行われました。事務局より27年度会計報告と28年度世話人と行事予定の提案があり、承認されました。

【76回観察会】

日 時：2016年6月26日（日）
場 所：佐倉城址公園
講 師：吹春俊光
参加者数：77名（大人68名、子供9名）
採 集 数：同定：45種、未同定：24点

明け方までの雨が上がり、湿気は多いものの程よいお天気。種数はほぼ例年どおりながら、それぞれの個体数はやや少なめに感じました。

いつも佐倉で話題になるきのこといえば、トゲミノカラカサタケ *Lepiota calcicola* (= *Echinoderma calcicola*)。カサも柄も、毛羽だった大きなツノ状の被膜で被われるのが特徴です。かつて本観察会ではキツネノカラカサ属の一種とされていましたが、糟谷大河氏が2003年に日本新産種として報告し、名前がつくようになりました。また、いつしかミカドアンズタケ（仮）とよばれるようになった、カサに赤みをもつアンズタケの仲間は、シラカシの下によくみられるようです。しわひだは、アンズタケのように黄色ではなくクリーム色です。



第76回観察会 集合写真 2016年6月26日 於：佐倉城址公園

観察記録 (50音順) ()内は博物館の標本番号
アイゾメクロイグチ(FB-41753)、アミスギタケ、
アラゲキクラゲ、アンズタケ、イロガワリ、イロ
ガワリキヒダタケ、オオツルタケ (FB-41750)、
オニイグチ (FB-41755)、オリーブサカズキタケ、
カレバキツネタケ (FB-41758)、キクラゲ、キチャ
ハツ、キヒダタケ (FB-41754)、クモタケ (FA-41752)、
クロタマゴテングタケ (FB-41757)、クロラッパ
タケ、ケガワタケ (FB-41777)、コウジタケ、コ
キララタケ (FB-41763)、ザラツキキトマヤタケ、
シロトマヤタケ、シロハツ、スジウチワタケモド
キ (FB-41751)、ツチグリ、ツヤウチワタケ、ツル
タケ (FB-41756)、トキイロヒラタケ、トゲミノ
カラカサタケ、ニオイコベニタケ、ニオイワチ
タケ (FB-41771)、ニッケイタケ、ハイロイタチ
タケ (FB-41762)、ハリガネオチバタケ、ヒイロ
タケ、ヒメキシメジ、ヒメムキタケ (FB-41767)、
ヒラフスベ (FB-41759)、フクロツルタケ (広義)、
ベニセンコウタケ (FB-41760)、ホソネヒトヨタ
ケ (FB-41768、FB-41769)、ミカドアンズタケ
(仮)、ヤナギマツタケ (FB-41766)、*Parasola*
"neoplicatilis" (他で採集された標本で投稿
中) (FB-41764)、*Parasola setulosa* (なんと日
本新産種! 報告で準備中) (FB-41770)

以上、同定されたものは45種。それ以外に不明
種を合計24点採集し、うち7点を標本とした。

【77回観察会】

日 時：2016年9月24日 (土)
場 所：泉自然公園
講 師：吹春俊光
参加者数：59名 (大人55名、子供4名)
採 集 数：同定：64種、未同定：20点

湿度の高い曇り空と、時折ばらつく雨。9
月もラニーニャの影響で猛暑となるといわ
れていましたが、関東はすっきりしないお天
気続きで、日照不足の冷夏となりました。

それでも乾燥しているよりは好条件、と期
待をよせてみましたが、地温が低かったせい
なのか、夏のきのこは期待外れで、いつもは
たくさんみられるウスキテングタケやナナ
フシテングノメシガイが一本もなかったの
は驚きでした。一方で、ナラタケモドキに
しては一個体がものすごく大きいものが採れ
たり、ニガクリタケの大きな群落があったり
と、腐生性のものがいつもとちがう表情だっ
たのは、雨のおかげかもしれません。



第77回観察会 集合写真 2016年9月24日 於：泉自然公園

観察記録 (50音順) ()内は博物館の標本番号
 アイゾメクロイグチ (FB-41933)、アカチャツエタケ、アカハツ、アカヤマタケ、アシボソノボリリュウ (FA-41945)、アンズタケ、イッポンシメジ、ウシグソヒトヨタケ (FB-41935)、ウスキモリノカサ (FB-41946)、ウラムラサキ (FB-41949)、オオツルタケ、オキナクサハツ、カニノツメ、カノシタ、カバイロツルタケ、カレエダタケ、カレハキツネタケ (FB-41941)、カワラタケ、カワリハツ、ガンタケ、キアシグロタケ、キツネノロウソク (FB-41947)、クリイロカラカサタケ (FB-41943)、クロアシボソノボリリュウ、クロチチダマシ (FB-41953)、クロハツ、クロハツモドキ、クロラツパタケ、ケショウハツ、コツブヒメヒガサヒトヨタケ (FB-41954)、コフキササルノコシカケ (FB-41952)、ズキンタケ (FA-41937)、スミゾメヤマイグチ、ダイダイガサ、チシオタケ (FB-41940)、チチアワタケ、チャヌメリカラカサタケ、ツクツクボウシタケ、ツチグリ、ツチナメコ、ツチヒラタケ (FB-41948)、ツノフノリタケ、ツヤウチワタケ、ツルタケ、ツルタケダマシ、テングタケ、テングツルタケ、トゲミノカラカサタケ、ナラタケモドキ (FB-41942)、ニオイワチチタケ、ニガクリタケ (FB-41936)、ニッケイタケ (FB-41950)、ノウタケ、ノボリリュウ (FA-41934)、ハナオチバタケ (FB-41955)、ヒイロタケ、ヒメキシメジ、フクロツルタケ (FB-41944)、ベニセンコウタケ、ベニチャワソウタケモドキ (FA-41938)、ヘビキノコモドキ、ミカドアンズタケ (仮)、ヤナギマツタケ、ユキラツパタケ。

以上、同定されたものは64種。それ以外に不明種を合計20点採集し、うち3点を標本とした。

【78回観察会】

日時：2016年10月8日(土)
 場所：クオードの森(旧市原市民の森)
 講師：吹春俊光
 参加者数：50名(大人45名、子供5名)
 採集数：同定：48種、未同定：8点

お昼頃から断続的に雨が降るあいにくの天気で、薄暗いあずまやでの同定会となりました。観察できた種数が例年より少ない気がしましたが、今年もバカマツタケが採集され、まだ食べたことのない人たちの熱い視線を浴びていました。お昼休みには美味しい茹で落花生と焼芋の差し入れがあり、楽しい一日となりました。開始時に管理人から、「今年はマムシが多いので注意するように」との話があり、実際に出会った人もいたようでした。

観察記録 (50音順) ()内は博物館の標本番号
 アイタケ、アオゾメタケ、アカチャツエタケ、アカヤマタケ、アカヤマドリ、ウコンハツ (FB-43056)、ウスキモリノカサ、ウスヒラタケ、オオニガシメジ(仮)、オニフウセンタケ (FB-43068)、カキシメジ(グアヤク脂で緑色に変色) (FB-43053)、カワラタケ、ガンタケ、キショウゲンジ (FB-43067)、キンカクイチメガサ (FB-43064)、クサウラベニタケ、クサカレハタケ(仮、ダイコン臭有、氏家さん同定)、クリカワヤシャイグチ (FB-43073)、クロゲシジミタケ (FB-43071)、クロチチダマシ、クロハツ、ケシロハツ (FB-43052)、ケシロハツモドキ (FB-43065)、ケロウジ (FB-43051)、コウモリタケ、コガネヤマドリ (FB-43069)、コテングタケモドキ、サクラシメジ (FB-43061)、サマツモドキ、ショウロ (FB-43055) シロアンズタケ (FB-43050)、シロイボカサタケ (FB-43060)、シロハツ、スミゾメヤマイグチ、チシオタケ、チチタケ (FB-43062)、ツチカブリ (FB-43072)、ツルタケ、ナガエノチャワソウタケ、ナラタケモドキ (FB-43057)、ニッケイタケ、ヌメリイグチ、バカマツタケ (FB-43054)、ベニチャワソウタケモドキ (FA-43058)、ミネシメジ、ミヤマザラミノヒトヨタケ (FB-43059)、ヤグラタケ (FB-43063、FB-43066)。

以上、同定されたものは48種。それ以外に不明種を合計8点採集し、うち1点を標本とした。



第78回観察会 集合写真 2016年10月8日 於：市原クオードの森（旧市原市民の森）

【第60回日本菌学会参加】 —————

日 時：2016年9月17日（土）～18日（日）
場 所：京都大学（京都府）

日本菌学会第60回記念京都大会のアマチュアの会有志によるコーナー「アマチュア研究者の取り組み（2016年）」へ参加し、本会のポスター紹介と会報の展示を行いました。

【講演会】 —————

日 時：2016年12月25日（日）
場 所：千葉県立中央博物館講堂
演 題1：「世界の森をささえる菌類」
講 師：奈良一秀（東京大学大学院
新領域創成科学研究科教授）
演 題2：「うんこは生きもののごちそう」
講 師：伊沢正名（写真家）
参加者数：85名（談話会員65名、一般20名）

奈良先生の講演で印象的だったのはトガサワラの話です。トガサワラは3400万年もかけて独自の進化を遂げてきた日本固有種で、残念なことに現在は絶滅危惧



種だそうです。トガサワラの菌根を調べるとトガサワラにだけみられる新種のショウロ属トガサワラショウロが見つかり、この菌根菌はトガサワラの祖先種と一緒に日本に渡り、共に進化してきたものと考えられ、トガサワラ林の保全の鍵となる種と考えられているそうです。

他にもハイマツにはクロツヤショウロとハイマツショウロ、ヤクタネゴヨウにはヤクタネショウロ（仮）等、新種のショウロ属が見つまっているそうです。もう一つ、印象的だったのは樹木の成長と菌根菌の関係の実験の写真です。本当に菌根ができないと樹木は育たないのです。昨年ベランダで枯れそうなコーヒーの木が奇跡的に実をつけたので、その実を鉢に植えました。芽生えたものの、ちっとも成長しないのです。実験写真を見て原因がわかりました。

地下生菌にご興味があるかたは、奈良先生の共著に『地下生菌識別図鑑』（本誌p81-82に紹介）がありますので、ぜひお手にとってみてはいかがでしょうか。

伊沢さんには1993年6月に「キノコ写真の撮り方」講座の講師をしていただいたことがあります。まだデジカメが普及する前でした。その講座以降、会員の接写技術が格段に向上して、

スライド会の写真が美しくなっただと思います。

今回の講演は、‘糞土師’としてもご活躍中の伊沢さんの生態系に対する情熱的なお話でした。確かに理想ではありますが、恵まれた自然環境が身近にない都会人には、実践するのは極めて困難でしょう。できるのは頭の片隅に留めておくくらいでしょうか。それにしても伊沢さんの快調な〇〇〇とお住まいの環境が羨ましいです。

今回聴きそこねた方は、内容を絵本にしたものが出版されていますので、ご覧になってはいかがでしょうか。

※公共の場所での大小便は、軽犯罪法に触れる可能性があります。(編)

【第25回スライド会】

日 時：2017年1月14日(土)

場 所：千葉県立中央博物館講堂

参加者数：77名(大人73名、子供4名)

今回も多数の作品発表がありました。毎年恒例、「すずらん」による元気なハンドベル演奏で癒されました。小物展示では一部が参加者へのプレゼントとされ、交流が深まりました。ご提供いただいたみなさま、ありがとうございます。終了後は、新年会も開催されました。

スライド発表(発表順)

中田裕士・朱音：キノコの正体を見る
～夏休み中央博を訪ねて～

中田千晴・真也子：家族で楽しんだ2016年
キノコと山の旅

中島淳志：菌の輪を描く - GraphAn による
種名リストの系統的可視化



うんこはごちそう
農文協(2013)

萩本 宏・小寺祐三：マツカサキノコの純粹
培養による子実体形成

須賀良行：2016年のきのこ

山本充弘：南房総のきのこ - 身近に発生した
ハラタケ科の仲間・光るきのこ・
砂地のきのこ

真鍋昌義：豊英島の植生と共生するきのこたち

浅井淑子：二年目の日光 - アラゲコベニチャ
ワントケおたくの一年

浅井郁夫：「二年目の日光：1~4月」または
「2016年6月の日光」

大久保泰和：ツチグリ外皮の開閉について

小倉豊史：きのこ模型の気流可視化

前川啓二：過日、変形菌に出会う その風姿麗し

大作晃一：最近撮っている写真と本の紹介

根田 仁：菌類図譜に見るツキヨタケ

三休さん：ツソ・キノコ

♪ハンドベル演奏♪

演奏：すずらん(演奏者20名)

指揮：近田節子

曲目：「童謡メドレー」「いつも何度でも」
「瑠璃色の地球」

小物展示コーナー

<写真・書籍・資料等>

・写真『きのこたち』、『きのこ』

・書籍『珍菌』

・『2016年の気温・雨量とヤマドリタケモド
キノコの発生 - 行田公園9年目のデータ -』

<小物展示品>

Mycobook(文庫本に発生させたヒラタケのアート
作品)、ハンドメイドの鞆、きのこ絵柄のジャケ
ット、毛糸編みのきのこ、エノキタケの玩具、ハ
ンカチ、手拭い、空き箱、ヘアゴム、4種のアイ
ロンプリントのマイバックとハンドメイド作品、
マイクロワックスと油性色粉の手作りきのこ、産
業廃棄物で作ったきのこオブジェ、ドイツ古銭、
煙だし人形、ポストカード、マツカサキノコ生菌、
きのこ鎌、団栗ゴマ、四葉の葉、キャラメル、他。